

「女性が住みたくなるスタートアップ事業」 に係る調査報告書（概要版）

2022年度 熊本県・熊本県立大学共同調査

※本調査は、熊本県の20代～30代の女性の転出超過数が男性を上回っている要因の調査・分析を、熊本県立大学と連携して実施したものです。

2022年12月

目 次

1	調査の概要	1
2	県外転出者アンケート	
	(1) 熊本への愛着や戻ることへの関心	3
	(2) 県外への転出の理由	4
	(3) 熊本のポジティブなイメージ	5
	(4) 熊本のネガティブなイメージ	6
	(5) アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）について	7
	(6) 熊本で期待するライフスタイル	8
	(7) 熊本での暮らしの不安や懸念点	9
	(8) 熊本でやりたい仕事のイメージ	10
	(9) 熊本でやりたい業種	11
	(10) 熊本での子育て	12
3	U I J ターン者アンケート	
	(1) 熊本に移住した理由	13
	(2) 熊本に移住して期待より良かった点	14
	(3) 熊本に移住して期待より悪かった点	15
	(4) 熊本に移住者を増やすための支援	16
4	今回の調査から見えてきたこと	17

【参考資料】

- ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「移住等の増加に向けた広報戦略の立案・実施のための調査事業」（R2内閣府調査）
- ・国土交通省「企業等の東京一極集中に係る基本調査（市民向け国際アンケート）」（R2国交省調査）

1 調査の概要

●調査目的

- 20代～30代の若い世代が熊本県から県外に転出する要因を明らかにし、熊本県の人口減少に歯止めをかけるとともに、熊本県における男女共同参画社会づくりに有効な施策立案につなげる。

●調査方法

□ アンケート調査（Web）

- 期間：2022年8月～9月
- 対象：熊本県出身で県外在住及びUIJターンで熊本県在住の20代～30代男女（図1、2）

➤ 県外転出者：

	総数	社会人			学生
回答サンプル数	906	761			145
性別		女性 567人	男性 192人	不明 2人	
居住地別		東京圏 390人	中部関西圏 143人	福岡県 228人	

UIJターン者※：326サンプル

（うち女性169、男性156、不明1）

- ・ 移住のスタイル：Uターン58%、Iターン25%、Jターン8%
- ・ 移住前の居住地：福岡県29%、東京都11%、鹿児島県10%

□ ヒアリング調査（オンライン）

- 期間：2022年8月～9月
- 対象：熊本県出身で県外在住及びUIJターンで熊本県在住の20代～30代女性
- 対象人数：県外転出者23名、UIJターン者※11名

図1 県外・社会人に対するアンケート回答者

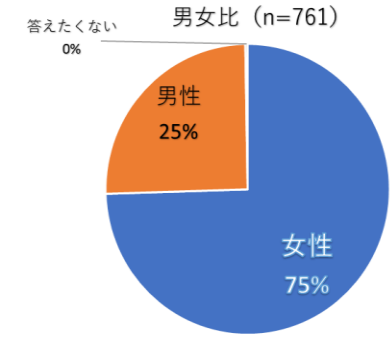


図1

図2 現在の居住地 (n=761)

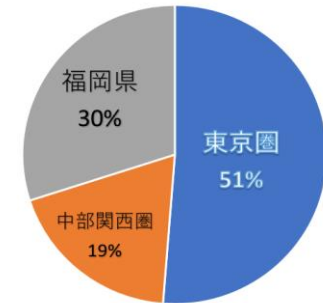


図2

※Uターン：熊本県出身者が熊本県に戻るもの
Iターン：他県出身者が熊本県に来るもの
Jターン：他県出身者が一度出身地以外の都道府県に移動してから熊本県に来るもの

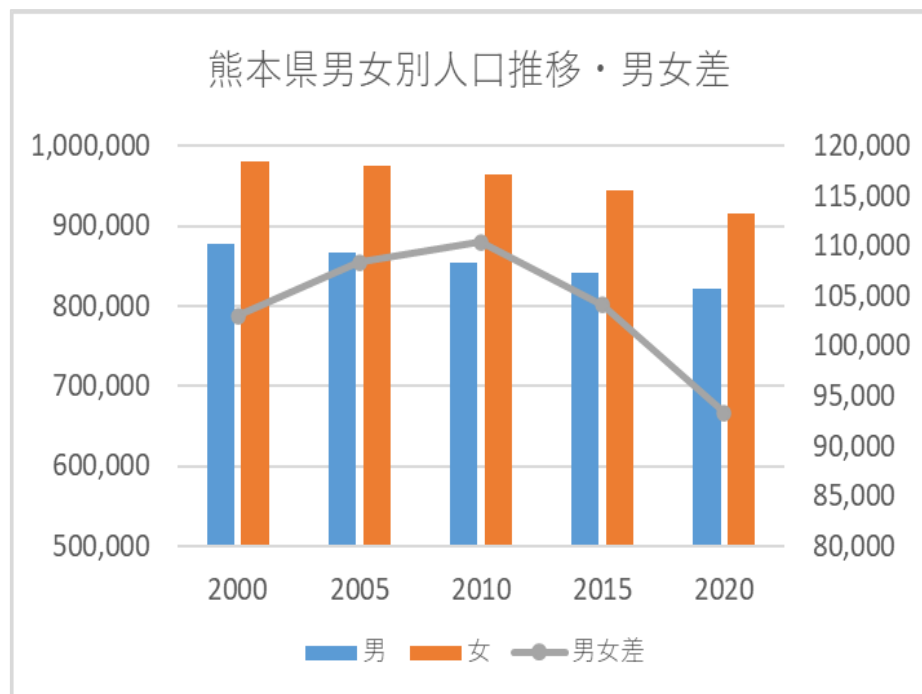
1

1 調査の概要

●熊本県における女性人口の減少

- 熊本県は女性の多い県であるが、男女差は縮まっている (図3)
- 熊本地震(2016年)以降、女性の転出超過が男性を上回る (図4)

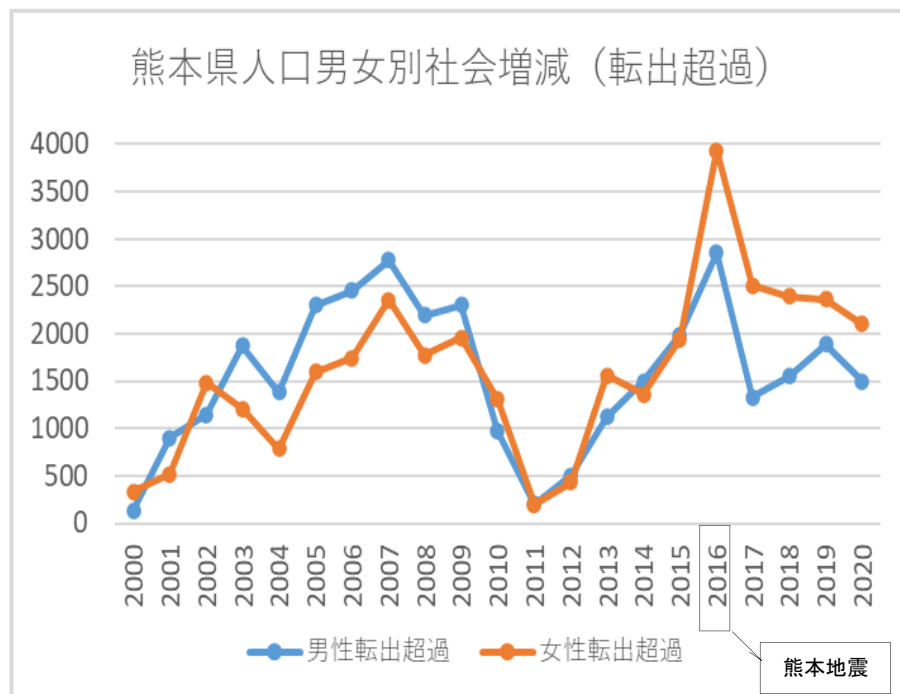
図3



出典: 熊本県統計年鑑

男女差(灰色の折線)は徐々に縮まる

図4



出典: 熊本県統計年鑑

熊本地震以降、女性(赤)の転出が上回る

2 県外転出者アンケート

(1) 熊本への愛着や戻ることへの関心

●93%が熊本県に愛着があり、61%が戻ることに関心

① 出身地で働きたいか

➤ そう思う、どちらかといえばそう思う 30%
 (9%) (21%)

* R2国交省調査 19%

② 熊本県への愛着はあるか (図5)

➤ とても愛着がある、まあ愛着がある 93%
 (51%) (42%)

* R2国交省調査 81%

③ 熊本へ戻ることへの関心はあるか

➤ 関心がある + やや関心がある + 気にはなっている 61%
 (18%) (20%) (23%)

* R2内閣府調査 (全体) 49.8%

* 同 (地方圏出身) 61.7%

④ 熊本に戻ることに関心がある理由 (図6)

➤ 生まれ育った地域で暮らしたい 63%
 * R2内閣府調査 (全体) 16.2%

* 同 (地方圏出身) 38.4%

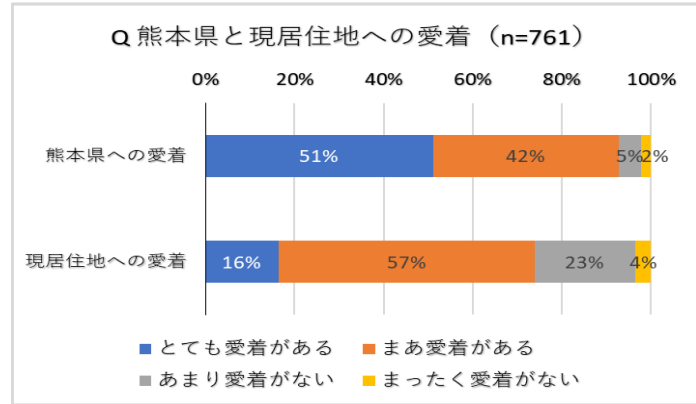


図5

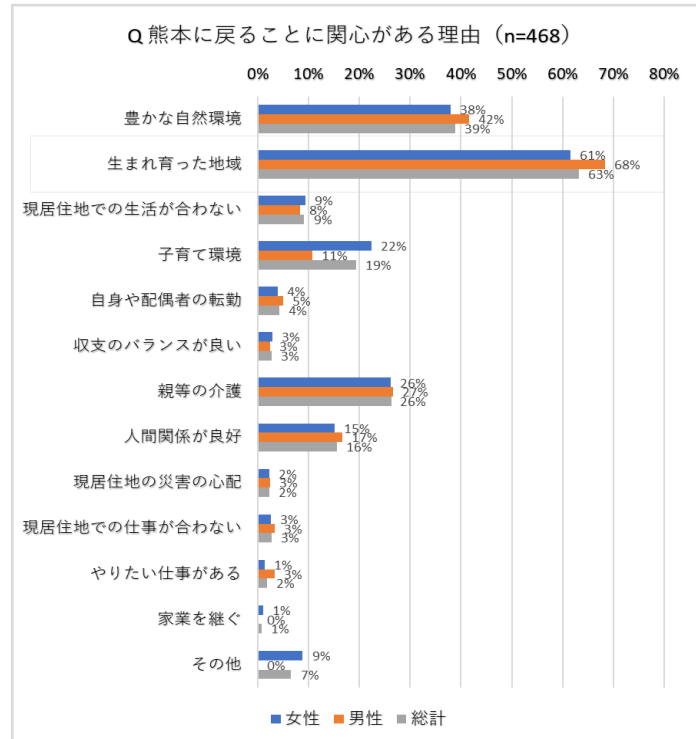


図6

ヒアリングでの主な意見：

- ・気持ちとしては熊本に戻りたい。
- ・親の介護が必要になった場合に手助けしたい。
- ・ずっと育った環境でとても好き。ゆったり公園の散歩もできる。
- ・欲しいものは街に行けば集まっているので、老後も便利。

2 県外転出者アンケート

(2) 県外への転出の理由

●進学や就職のために県外へ転出、大都市圏は選択肢が多いことが魅力

図7

① 県外転出の理由 (図7)

- 希望する職種の仕事が見つからない 33%
- 賃金等の待遇が良い仕事が見つからない 27%
- 希望することが学べる進学先がない 21%

※R2国交省調査

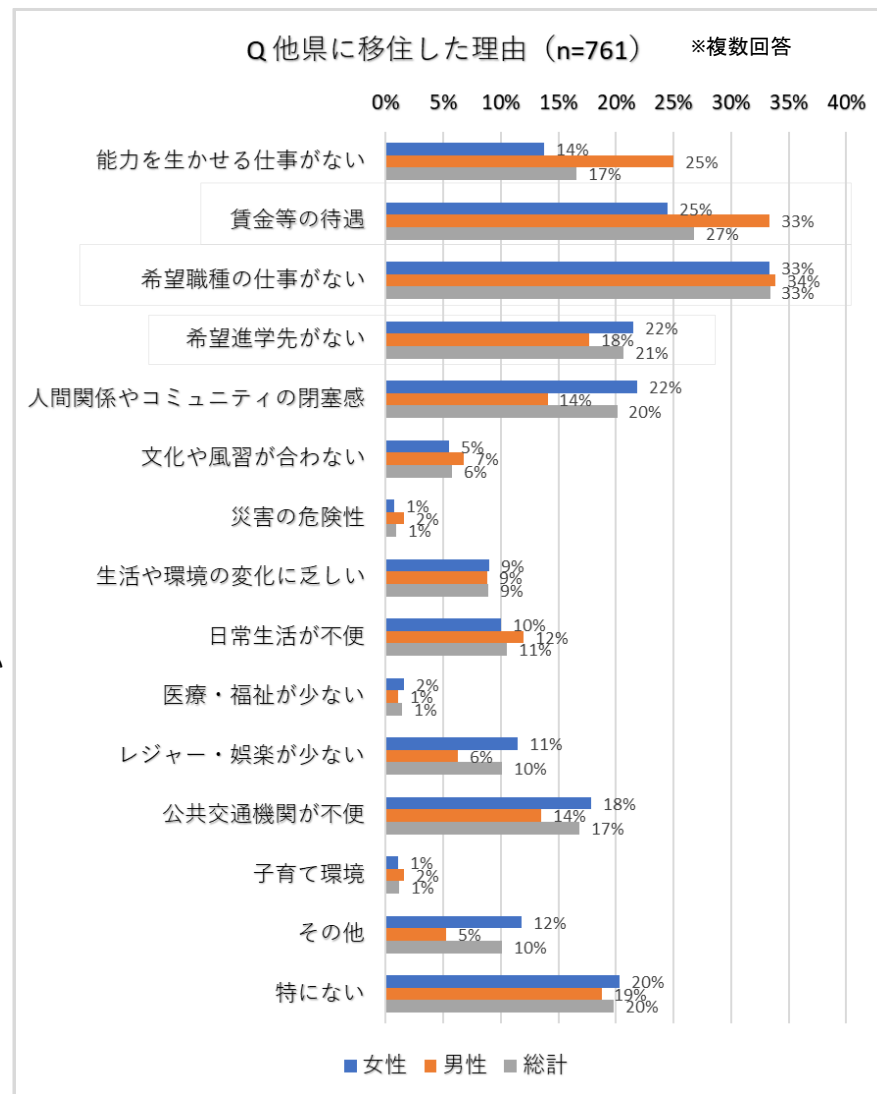
希望する仕事 約26%
 待遇の良い仕事 約20%
 希望する進学先 約15%

② ヒアリング結果から

- 大都市圏は学業、就職において選択肢が多い
- 様々な人や文化に触れることができ、情報も早い
- 視野が広がり仕事においても力が付く

ヒアリングでの主な意見：

- ・自分の興味がある分野で仕事をしたいと思い、それに直結するのは東京の企業、大学だった。
- ・熊本でも就職先を探したが、給料が格段に違った。



2 県外転出者アンケート

(3) 熊本のポジティブなイメージ

●熊本県のポジティブなイメージは、自然の豊かさや家族・友人の存在

図8

① 熊本県へのポジティブイメージ (図8)

- 自然豊かな環境でのんびりと過ごす 71%
- 知人・友人や地域の人と交流 52%
- 海や山が近くレジャーが楽しめる 42%
- 自然豊かな環境でのびのびと子育て 41%

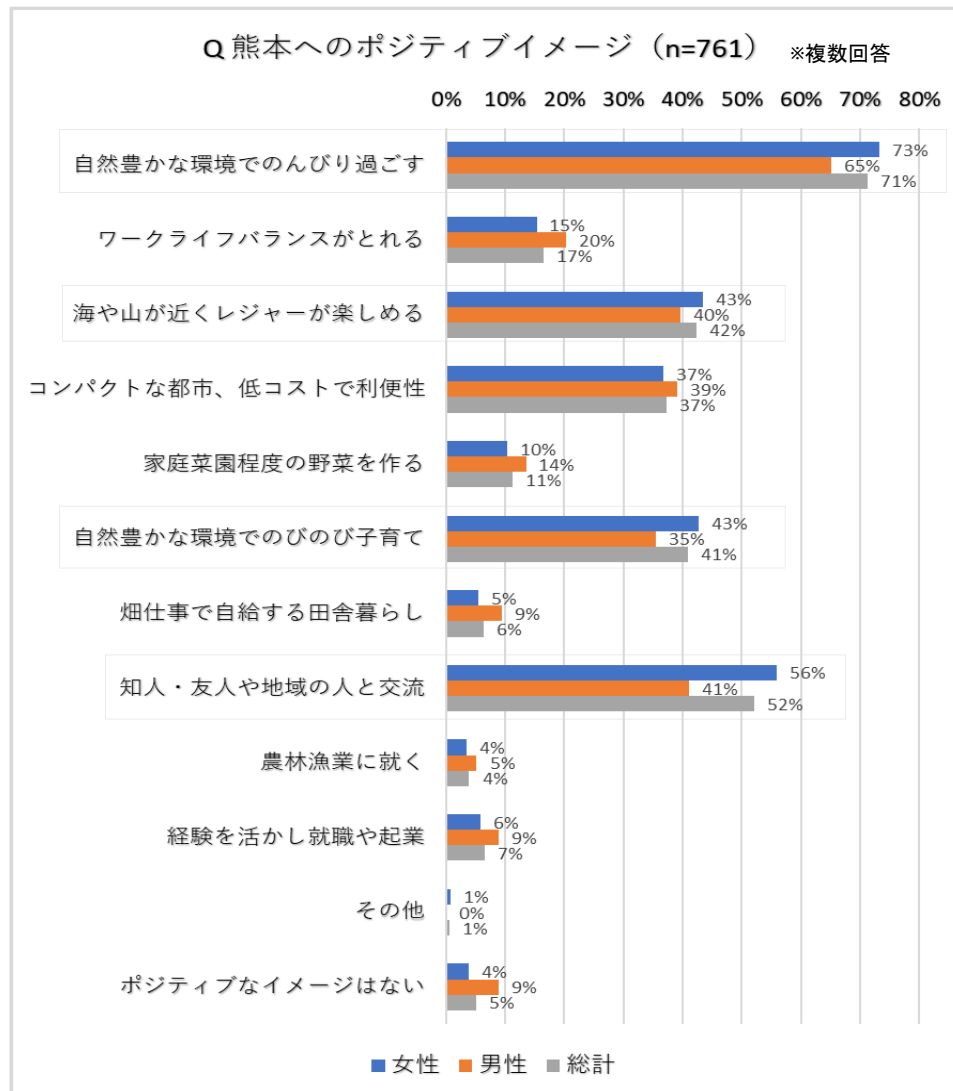
◆その他の記述欄では、「水の豊かさ」があげられており、全体として自然豊かな熊本県というイメージが強い。

② ヒアリング結果から

- 自然の豊かさや家族・友人の存在で、心が健やかに過ごせる

ヒアリングでの主な意見：

・都会よりは自然が好きなので、自分の育った場所はとても最適だった。



2 県外転出者アンケート

(4) 熊本のネガティブなイメージ

●熊本県のネガティブなイメージは、公共交通や収入、地域の人間関係

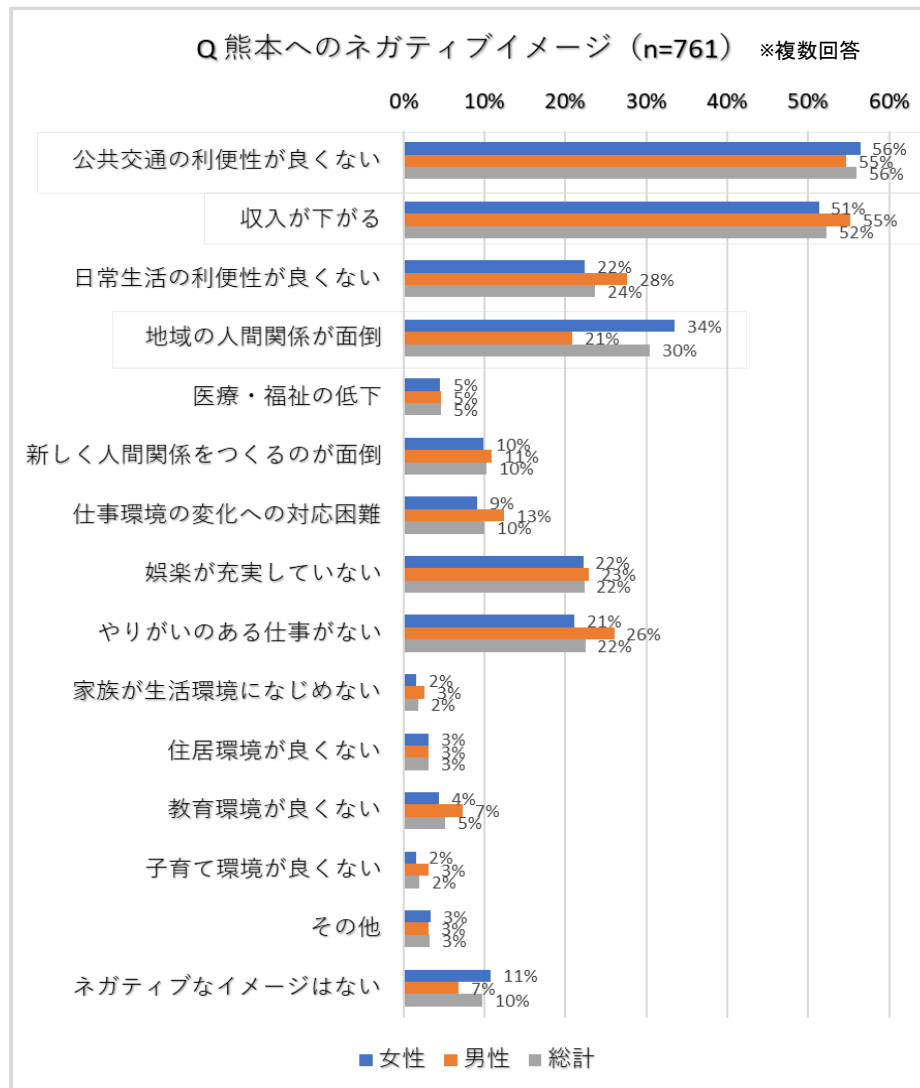
図9

① 熊本県へのネガティブイメージ (図9)

- 公共交通の利便性が良くない 56%
- 収入が下がる 52%
- 限られた地域の強い人間関係の中で生活することが面倒、難しい 30%
 - ・ 特に「地域の強い人間関係が面倒」という意識は女性の方が強い（女性34%、男性21%）

② ヒアリング結果から

- 祖父母・父母世代の固定的性別役割分担意識
- 女性の大学進学が当たり前ではない風潮
 - ・ 熊本は専業主婦に優しい地域だという意見も有り
- 空港が熊本市内から遠く不便



ヒアリングでの主な意見：

- ・ 大学受験を頑張りたいと思っていたが、自分の周りにはそんなに女の子は頑張らなくても良い、という感じがあった。
- ・ 県外に出てから思ったが、空港までのアクセスが悪い。電車がなく、バスや車がないと行けない。

2 県外転出者アンケート

(5) アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）について

●熊本県出身者は、地元の人とは固定的性別役割分担意識が根強く残っていると 感じる (図10)

① あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった固定的性別役割分担意識について賛同するか (図10)

- 反対、どちらかといえば反対 76% (45%) (31%)
- 賛同、どちらかといえば賛同 13% (3%) (10%)

② 自分の出身地の人たちはどうか (図11)

- 反対、どちらかといえば反対 28% (11%) (17%)
- 賛同、どちらかといえば賛同 36% (9%) (27%)

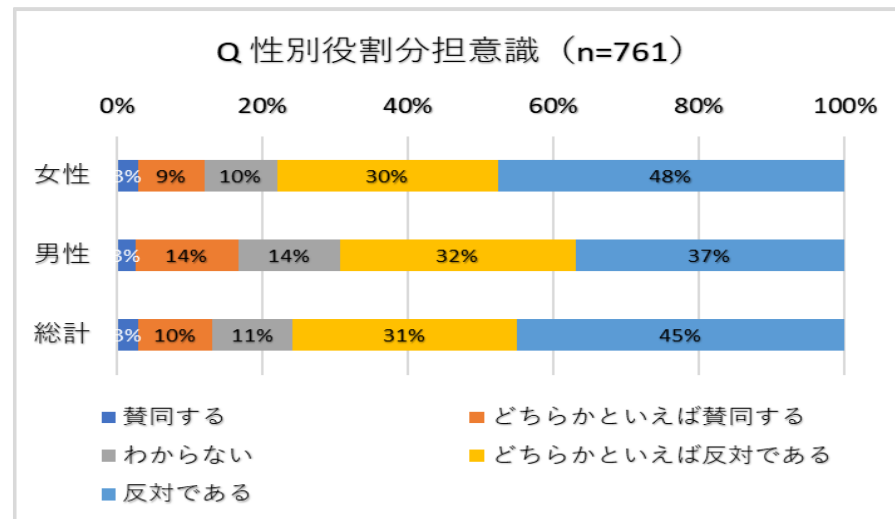
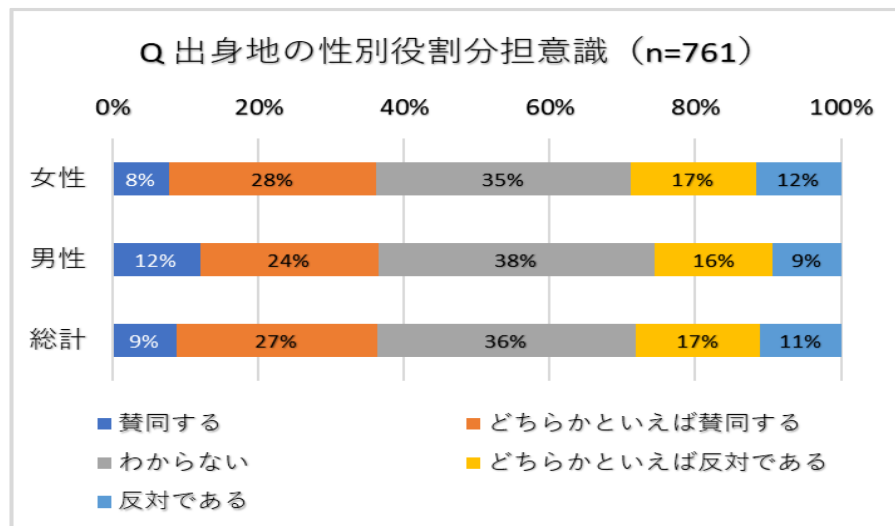


図11



ヒアリングでの主な意見：

- ・親戚一同で集まると、女性はみんな台所において、男性は飲んでいいる。そういう風潮が強い地域だと思う。そこで結婚すると、自分もその波に飲まれるんじゃないかと思う。
- ・女性はパートで働く、家事をする、という意識が都会より少し強い気がする。

2 県外転出者アンケート

(6) 熊本で期待するライフスタイル

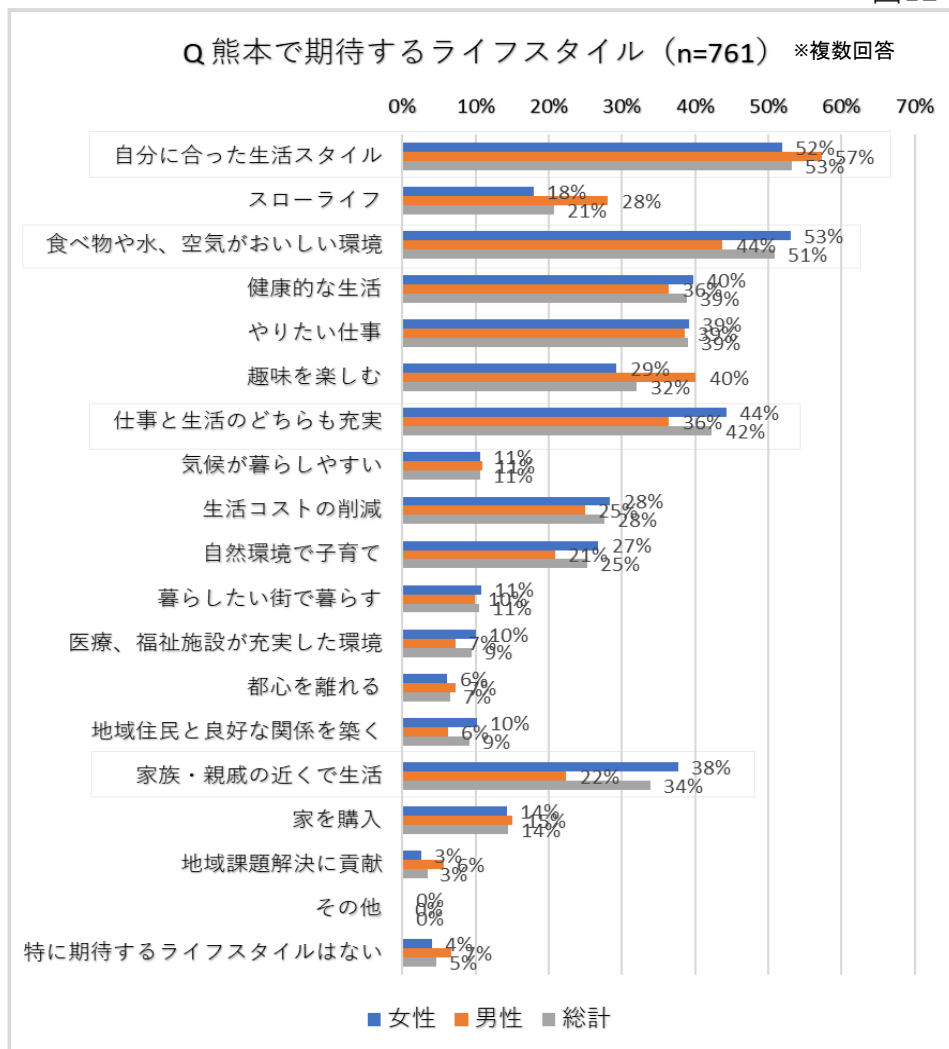
●熊本県で暮らすなら、自分に合った生活スタイルを送り、自然環境の中で生活することを実現したい 図12

① あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、期待するライフスタイル、実現したいことはどれか (図12)

- 自分にあった生活スタイル 53%
- 食べ物や水、空気がおいしい環境 51%
- 仕事と生活のどちらも充実 42%
- 家族・親戚の近くで生活 34%
 - ・ 特に「家族・親戚の近くで生活」の回答は女性の方が多い (女性38%、男性22%)

ヒアリングでの主な意見：

- ・ 東京だと小さな劇場がたくさんある。同じ日、時期にいろんな舞台やイベントをやっている。そういうものがあると良いと思う。
- ・ 熊本は自然豊かなので、自然を活かしたレジャーがもっと増えても良いと思う。



2 県外転出者アンケート

(7) 熊本での暮らしの不安や懸念点

●熊本県での暮らしは、仕事や交通面で不安がある

図13

① あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、不安や懸念点はどれか (図13)

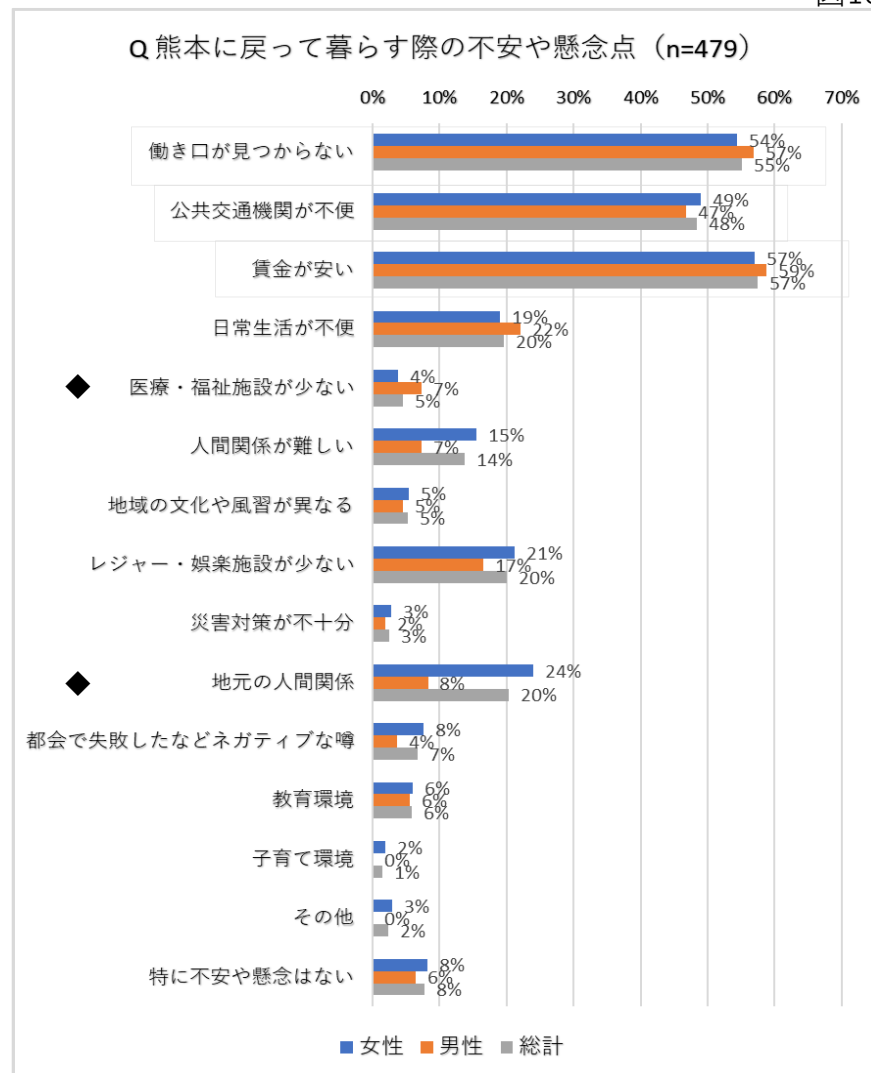
- 賃金が安い 57%
- 働き口が見つからない 55%
- 公共交通機関が不便 48%

◆「医療・福祉施設が少ない」の割合は、R2内閣府調査の23.4%に比べて、熊本県は5%と非常に低くなっている。

◆男女別では、女性の懸念点として「地元などで過去の人間関係に戻って生活したくない」が多い(女性24%、男性8%)。

ヒアリングでの主な意見：

- ・熊本の最低賃金で働いていると、厳しい部分がある。
- ・車がないと移動できないのが大変。公共交通機関が発達していて、車なしで色々な所に行ったり、近場に何かある方が良い。



2 県外転出者アンケート

(8) 熊本でやりたい仕事のイメージ

●熊本県で自分の能力やキャリアを生かした仕事がしたいと思っている者が突出して多い。

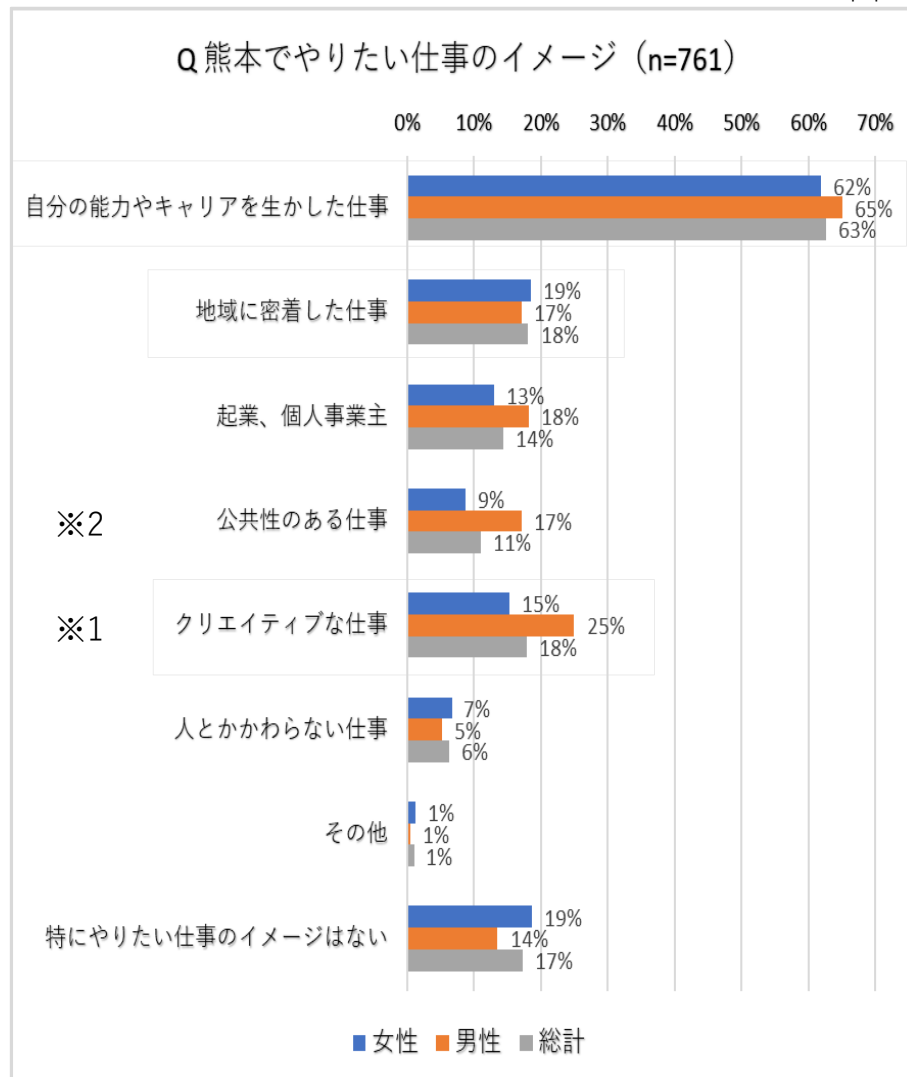
図14

① あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、やりたい仕事のイメージとして近いものはどれか (図14)

- 自分の能力やキャリアを生かした仕事 63%
* R2内閣府調査 46.8%
- 地域に密着した仕事 18%
- クリエイティブ、イノベーティブな仕事 18%
 - ・ 特に「クリエイティブ、イノベーティブな仕事 (※1)」、「地域課題解決に向けた公共性のある仕事 (※2)」の回答は男性の方が多い
 - ※1 女性15%、男性25%
 - ※2 女性9%、男性17%

ヒアリングでの主な意見：

- ・ 自分の能力を生かして高めつつ、それ相応の給料がもらえるところに勤めたい。
- ・ 先行例がたくさんあれば、熊本でも働きながら子育てができるとか、仕事を辞めなくて良いなど、戻りたいと思う人も多くなるように思う。



2 県外転出者アンケート

(9) 熊本でやりたい業種

●熊本県では、医療・福祉の割合が最も高くなっている。

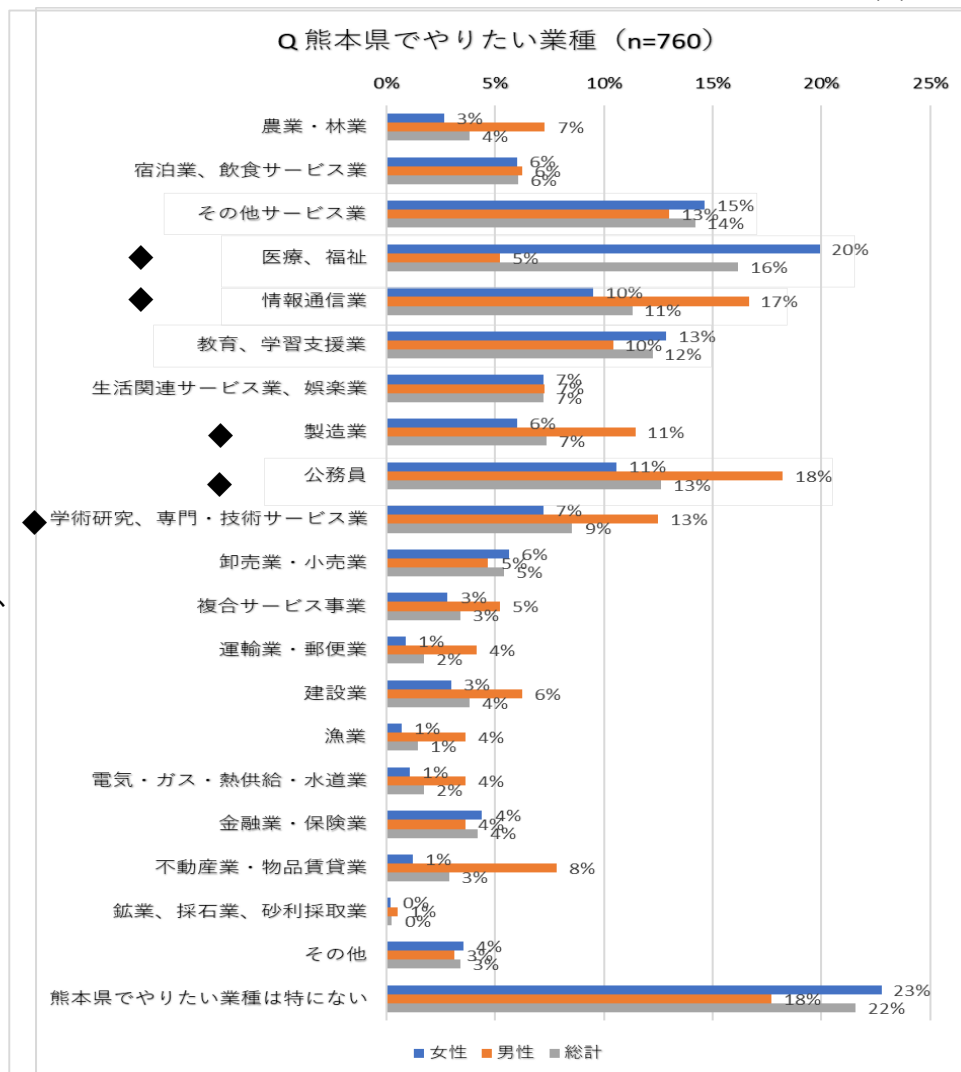
図15

① あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、やりたい業種はどれか (図15)

- 医療・福祉 16%
- サービス業（他に分類されないもの） 14%
- 公務員 13%
- 教育、学習支援業 12%
- 情報通信業 11%

◆男女別にみると、男性が大きく上回る業種は「公務員」、「情報通信業」、「学術研究」、「製造業」など複数存在する。

◆女性は「医療、福祉」の希望のみが、男性に比べて圧倒的に多い（女性20%、男性5%）。



2 県外転出者アンケート

(10) 熊本での子育て

●熊本県に戻って子育てを希望する者が、全体の半数近くになった。

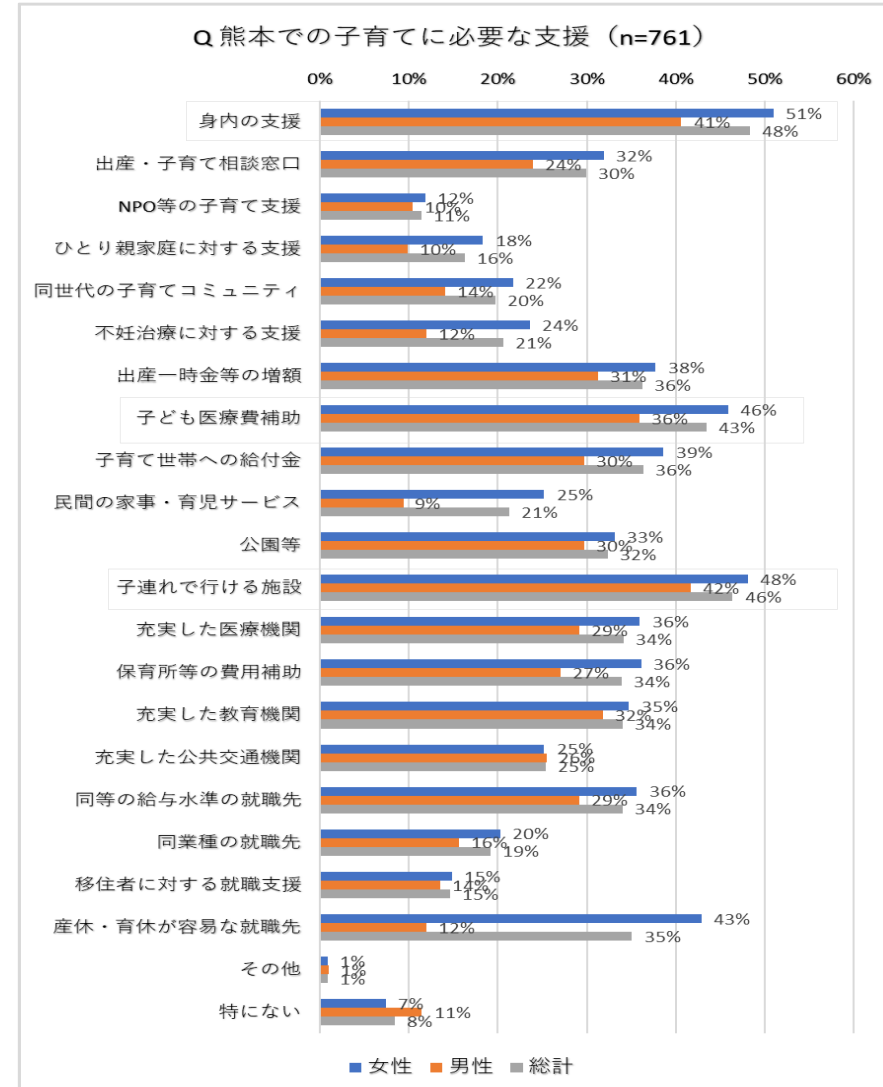
図16

- ① 熊本県での子育てを希望したいか
- そう思う、どちらかといえばそう思う 47%
 - (19%) (28%)
- ② あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、どういった子育て支援・環境があれば、良いと考えるか (図16)
- 親や親族等の身内の支援 48%
 - 子どもを連れて行ける施設 46%
 - 子どもの医療費補助 43%

◆その他の記述欄では「レベルの高い学校が必要」「収入による補助の制限がないこと」などの意見がある。

ヒアリングでの主な意見：

- ・情報量の差は、東京と比較するとあると思うので、教育関連の情報をもっと充実すると良いと思う。
- ・(子育てに関連する情報発信やPRを) 今であればInstagramや、Twitter、Facebook、ショートなどの短い動画でお勧めをすると、短い時間に見られて良いと思う。



3 UIターン者アンケート

(1) 熊本に移住した理由

●子育て、介護、就職をきっかけに熊本へ

図17

① 熊本県に移住した理由 (図17)

- 自分自身の仕事の都合 44%
- 実家や親戚の家がある 38%

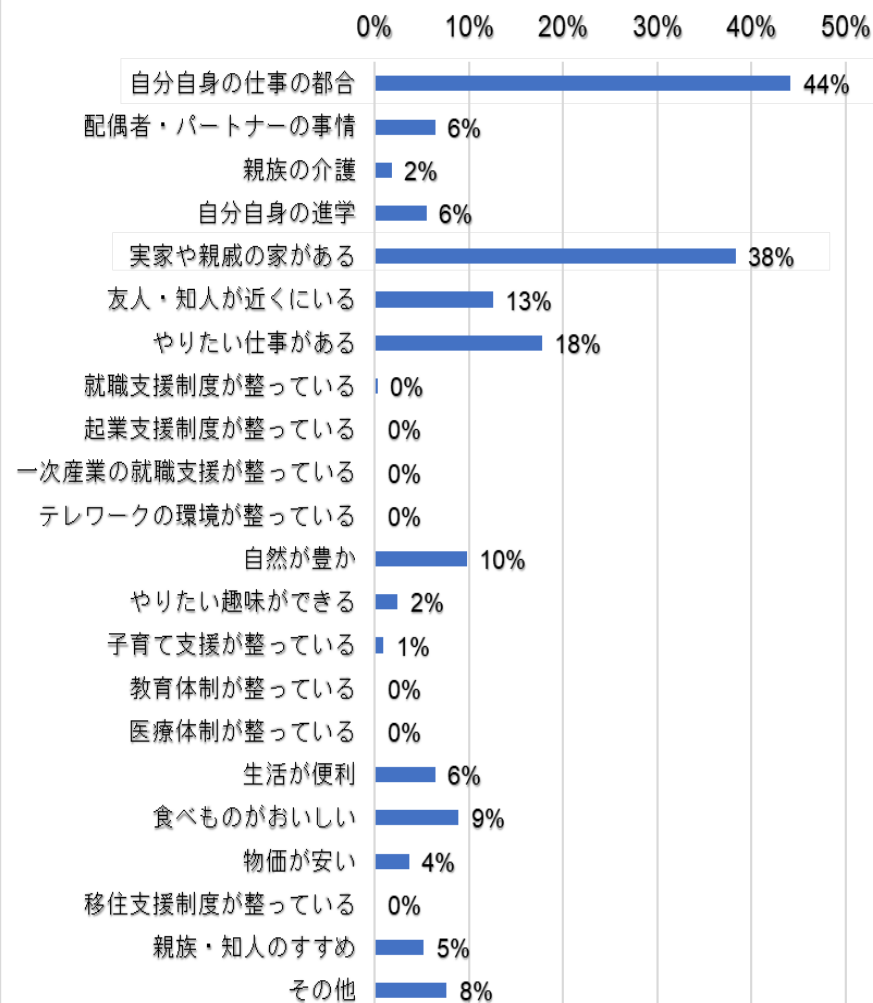
② ヒアリング結果から

- 子育てのため
 - ・ 都会での子育ての難しさや経済的な不安、親元で子育てすることで手助けを得たい
- 将来の親や家族の介護のため
 - ・ 自然災害をきっかけに将来的に必要となる家族の支援を考え、親元で暮らしたい
- 県内企業への就職のため
 - ・ 県内企業の内定、親の希望でUターンなど

ヒアリングでの主な意見：

- ・ 経済的なものを含めて、東京での子育ては、なかなか大変だろうなと思っている。
- ・ 東日本大震災の関東での被災をきっかけに、自分の人生、キャリアだけではなく、周りの人のことも考えるようになった。それから、両親の近くで生活やキャリアを積むことを考え、熊本に帰ることを決めた。

Q 熊本県に移住した理由(n=326)



3 UIターン者アンケート

(2) 熊本に移住して期待より良かった点

図18

●家族・友人の存在や自然の豊かさ

① 熊本県に移住して期待より良かった点

(図18)

- 家族・親戚の近くで生活できる 39%
- 自然環境が豊かである 32%
- 生まれ育った地域で暮らすことができる 31%
- 食べ物が美味しい 31%

◆その他の記述欄では、「物価が安い」、「景観に歴史を感じる」等があげられている。

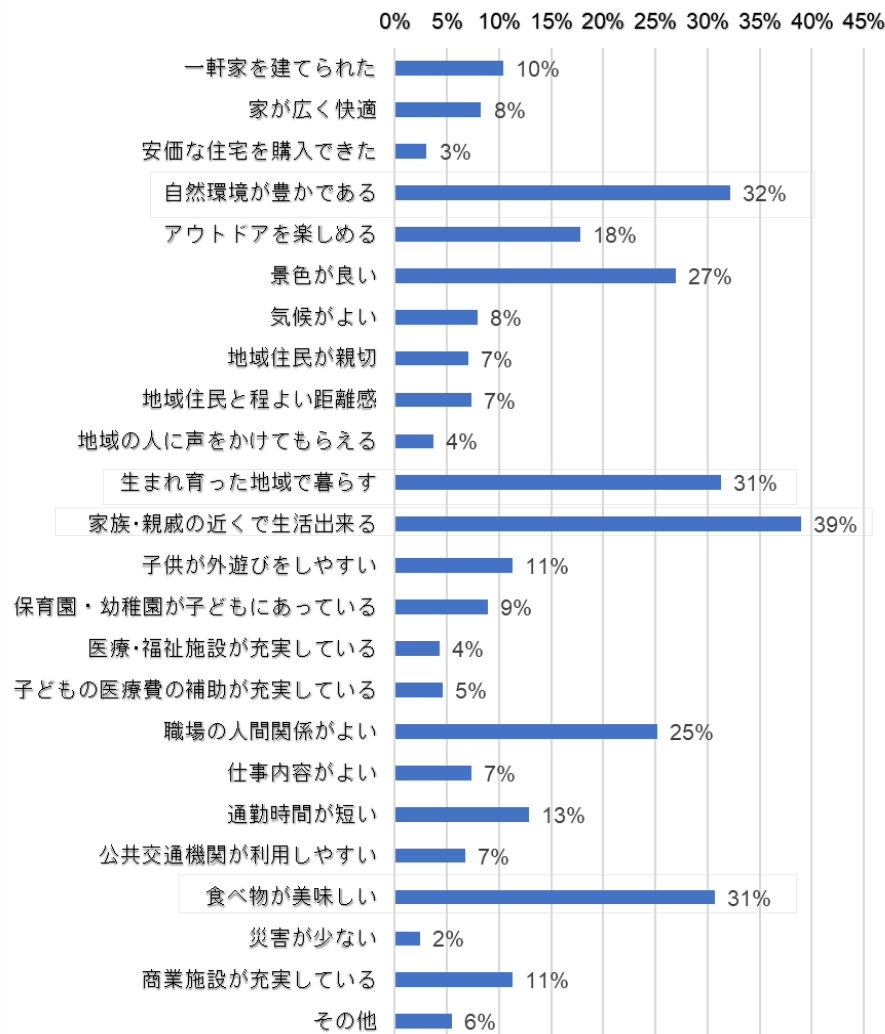
② ヒアリング結果から

- 自然の豊かさや家族・友人の存在で心が健やかに過ごせる

ヒアリングでの主な意見：

・都会よりは自然の方が好き。育った場所は、環境的にはとても最適だったと思う。

Q 熊本県に移住して期待より良かった点(n=326)



3 UIターン者アンケート

(3) 熊本に移住して期待より悪かった点

図19

●仕事や交通面での課題

① 熊本県に移住して期待より悪かった点

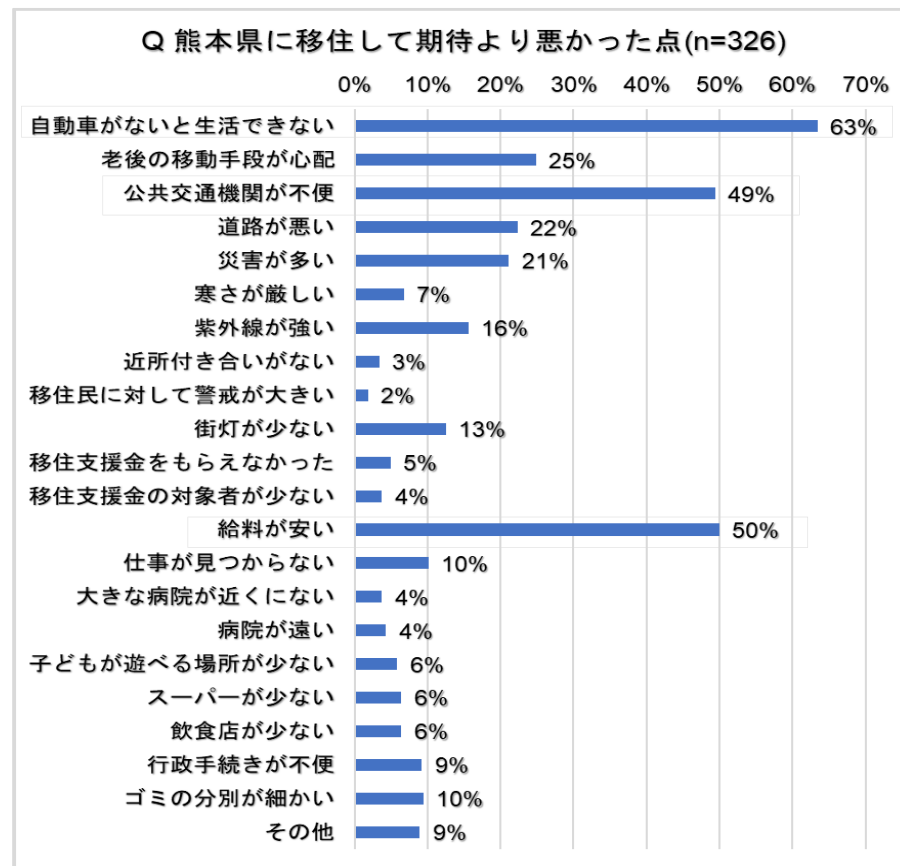
(図19)

- 自動車がないと生活できない 63%
- 給料が安い 50%
- 公共交通機関が不便 49%

◆その他の記述欄では、「結婚して一人前という考え方が残っており古い考え方に息が詰まる」等があげられている。

② ヒアリング結果から

- 大都市圏とのキャリアアップのギャップの存在
- 特に女性にとって、配偶者に付いていくことで勤務地を変えなければならない不安
→完全リモートワーク等により、仕事を辞めなくても済む体制を求める声
- 交通面では渋滞への不満や、免許センター、役所、空港等が地域の中心部から離れているなど
- 特に福岡県が対照としてあがり、交通の利便性が魅力と語る者もいた



ヒアリングでの主な意見：

- ・東京と熊本では、キャリアを積むのに成長度合いなども違ってくるので、地方都市ならではのキャリアに、漠然と不安になることがある。
- ・少しの移動や、買い物にも車を使うので、渋滞が多くて驚いた。福岡よりも、熊本は渋滞すると感じている。

3 UIターン者アンケート

(4) 熊本に移住者を増やすための支援

●仕事と子育ての魅力を向上し、PRする

① 移住者を増やすために必要な支援は

(図20)

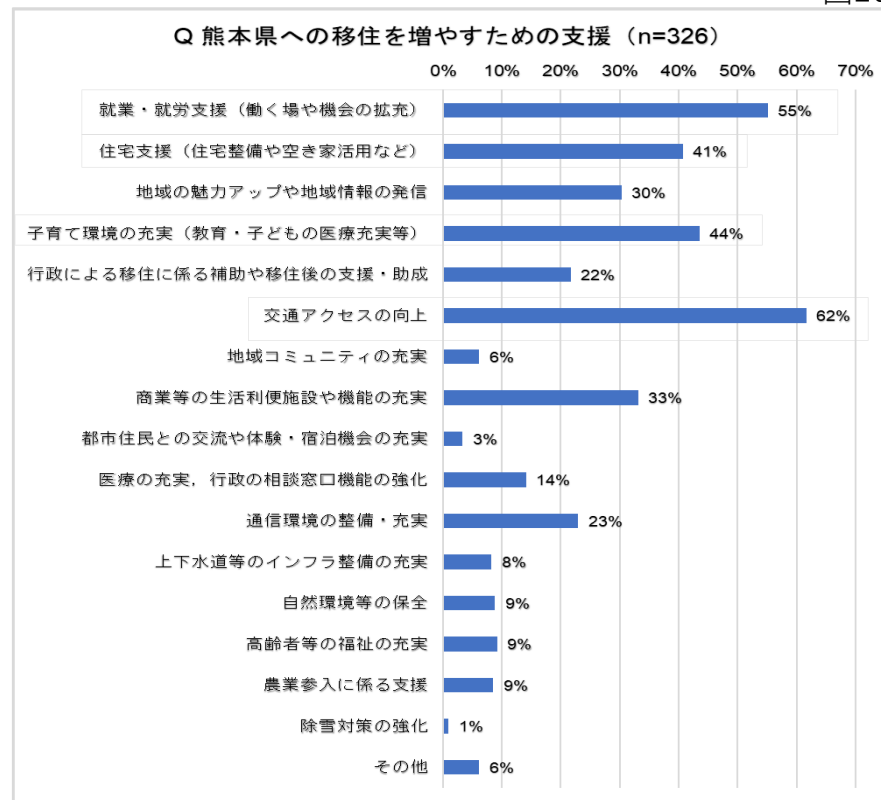
- 交通アクセスの向上 62%
- 就業・就労支援 55%
- 子育て環境の充実 44%
- 住宅支援 41%

◆その他の記述欄では、賃金・給与の引き上げ等の収入面に対する要望が多い。

② ヒアリング結果から

- 女性がさらに活躍できる雇用を創出
- リモートワークなどの柔軟な働き方や、福利厚生等の充実
- 熊本のPRポイント
 - ・ プライベートが充実できる環境、新幹線で福岡県や鹿児島県まで移動が容易、休日は自然の中で過ごす
- 熊本県での子育て
 - ・ 自然豊かな環境でのびのびと子育て、安心安全な食材等が魅力

図20



ヒアリングでの主な意見：

- ・ 給料が高ければ、自然が豊かで、プライベートも充実させることができ、何でもそろっているのととても良い場所。給料が変わっていけば、帰る人は多くなると思う。
- ・ 経験者の声を基に、「こういうキャリア形成やライフプランがある」ということが、魅力的に伝わるものがあると良い。
- ・ 「熊本のこの地で子育てしたい、育てほしい」というイメージを持ってもらうのも、大事だと思う。

4 今回の調査から見えてきたこと

●熊本ならではの「選択肢」の創造について

- 転出者にとって「選択肢の多さ」が魅力であり、女性はライフワークバランスも重視している。
- 熊本で充実している医療・福祉等の業種、食や自然などでの「選択肢」を創造し、熊本ならではの強みをアピールする。

●子育てを見据えた熊本での暮らしの提案について

- 戻ることを考えるきっかけは「子育て」や「介護」が多いため、子育てを見据えた帰熊を提案する。

●熊本県独自の教育の魅力創造について

- 地元で自然の中での子育ては強みの一方で、大都市圏に比べ教育の選択肢が少ない。
- 高校での特色ある教育で独自の魅力を発揮する。

●熊本県に対する愛着心へのアプローチについて

- 熊本県への愛着の強さを維持してもらえそうな関わり方として、ポジティブイメージをSNS（twitter、Instagramなど）で発信する。
- 県外転出者へ県公式SNSへの登録を促し、仕事・子育て情報を定期的に提供することで、いつでも必要な時に熊本へ戻って暮らせるようにする。

●熊本県に戻る懸念点の解消について

- 熊本県での仕事や子育て、住まいのPRをすることで、熊本県で暮らすことの魅力や価値を伝える。
- 交通渋滞の不安は、時差出勤やフレックスタイム制等のソフト面からのアプローチも重要である。
- リモートワークの推進と、通勤圏と生活圏を福岡県まで広げた定住策も考えていく必要がある。

●UIターンを増やすために

- 女性が熊本県でもキャリアアップ、自己実現できると感じてもらうように、子育て支援や働き続ける女性のモデルケースを増やしていく必要がある。
- アンコンシャスバイアスの認識と意識改革を図っていく必要がある。